

●読者からの便り

「お釈迦さまの涅槃」をはじめとする良いお話をありがたく拝読いたしました。また御收藏の絵画の写真を楽しく拝見いたしました。私共にも西蔵の名画を多く所蔵しており、どうも巷間で見える物と全くちがう良質の物の気がしますので、一度お目にかけることができれば幸いと存じます。

敬具

㈱日本文化資料センター 今井育雄

成寿を佛前に供え、報告しつゝ、読経させて戴き、流涙を止める事も忘れ乍ら、心からの御氣くばりを感じて居ります。さいわい体の調子も良く暖かくなったら孫の顔を見ながら横浜の善光寺様の方にも行って見たいと心待ちにして居ります。本当

に有難度く二回、三回と妻と読合つて居ります。寒さの析柄お体に気をつけて下さいませ、先づはお礼まで

西川栄治

前略

数ある記事の中、とくに留学生諸氏の現地レポートを興味深く読ませていただいております。留学生の人たちの体験談は、貴重なものとおもいます。日本の仏教会ないし仏教界に新風が吹き込まれるためには、貴重な経験をもった帰国者が一人でも多く増してくることがのぞまれます先ずはお礼のことばまで

佐々木教悟

このたびは成寿第六巻を頂戴し、ありがとうございます。駒大時代の同窓で、親友の河内義宣君が貴寺の派遣でニューヨークの禪寺に行かれたのだということを知り、びっくり

しました。彼からの年賀がニューヨークから届いた意味がやっとわかったのです。どうか次々と三蔵法師を全世界に送られますように。

貴寺益々の御清禪を祈念し御礼といたします。

吉津宜英

謹啓上

貴山ご法統いよいよ清栄の趣衷心よりお慶び申しあげます。先頃は成寿第六号をご恵送賜り有り難うございました。

数多玉章を拝読いたしました中でスリランカに学んでおいでの中野良教禅士の五十一頁の「日本とスリランカとの仏教交流について」のご指摘興味読いたしました。

私共は来る二月九日夕刻成田を発ち一週間彼の国を訪問します。何かございましたらお電話ください。お役に立てましたらと存じまして一筆

いたしました。

皆様のご自愛をお祈りしつつ御礼
まで申し上げます。

二月三日 合掌 上坂之一人拝

比の度は早速に留学僧公募の資料
お送り下さいまして有難うございま
した。知人にお勧めするつもりでお
ります。

又、全く思いがけなく「成寿」六
号を拝読させて頂くご縁を得ました
こと、この上ない喜びでございます。

どの頁を開きましても化仏が飛び出
して来そうな迫力に唯々驚きと歡喜
に言葉もございません。中村元先生
の寄稿文をはじめ、山主様、老師様
の御法話その他の方々の一言一句よ
り淨らかな熱情が読む者の心に伝っ
て参ります。

お写真の頁にも魅かれ眼を瞠りま
したが、表紙絵や挿画の素晴らしさ
十一面観音様の今にもお口が繞びす

ずやかなお声が聞えるのではないか
と思われれます。大悲の面差しに故もな
く涙が溢れ合掌致しております。

留学僧海外派遣という宗派を超え
ての遠大なる御計画、世界中の迷え
る者達の救ひとなることでありませ
う。「成寿」の贊助に加へて頂ければ
と些少ですが同封致します。御笑納
下さいませ

善光寺様の益々の御発展を念じて
止みません 先づは御礼まで

昭和六十二年三月十九日

鳥屋原百合子

前略 比の度は海外留学僧派遣育英
会願書及び関係書類、早速御送付頂
きありがとうございます。要項は
じめ書類、資料等隅なく拝覽させて
頂き育英会の御主旨に深い感銘を受
けると共に聊か海外禅佛教の動向に
触れ内より熱く湧き上がるものを感じ
ました。

思うに遠く外へ目を向ければ来た
るべき世紀末、二十一世紀、私共達
磨門下、高祖の法孫が世界人類の抱
える苦悩と精神的要求に応えるべき
状況にある時、なすべを知らぬで
は、佛祖法乳の慈恩に報ゆるには余
りに腑甲斐無く感ずるのは私のみで
ありませんか。しかし、誠に遺憾
ながら今年度の留学僧派遣申込みは
一身上の都合により断念しなければ
なりません、拙寺の開山堂位牌堂の増
改築工事のため、完成予定の今秋ま
で寺務に追われるからです。つきま
しては勝手ですが、レポートは来年
の〆切まで提出させて頂き、その後
理事会の御採択をお待ちしたいと存
じます。何卒宜しくお願い申上げま
す。

向寒の折から御聖胎長養されむこ
とをお祈り申し上げます。 敬具

昭和六十二年 正月 成孝九拝



(前略) 過日は清饗の席に御招きを頂きまして、誠に恭げなく、御懇志有難く篤く御礼申し上げます。ここに遅ればせ乍ら寸楮御礼の御挨拶を申し上げます。

誠に楽しくすごさせて頂きました。そのうち溶けた雲囲気もさることながら、こうした尊い集いを設けて下さいました堂頭老師の格別の御厚情に一層の感激の念を強く味わわせていただきましたことを申し添えずに

おれません。小生の事で恐縮ですが、昨年、一昨年と続けて、宗務庁主催による、国際青年年交流の参加者の為、僧堂生活体験をお世話させて頂くことがございました。その折、御互いの友好と禅仏教への期待をとりわけ亜細亜諸国の青年の関心の高さが、多々学び自覚させられることがございましたが、先日の如き甚深の友好の感激を分ち合う程には至り得ませんでした。従って自らの海外での色々な出会いを思い出すにつけても、間違はなく留学生諸氏がその喜びを忘れ得ぬ程に味わって下さったであろうと信じておる次第です。

そしてまた、楽しさ以上に感激致しましたことは、御老師の御声がかかりて集まられた皆様の素晴らしさでございます。内外の問題に目を点じておられる方こそが能く己れの真に成すべき道すじについても真摯にな

り得るものならんという思いを強く実感致してまいりました。

それに比して思われるのは、関心の持たれぬ意識の低い方々も多数おられるということに就いてであります。(中略)

御老師が申されておられる「世界の終わりに際しても人を育てる」との浄行・道念の深さについて本当に尊いことであると只々合掌申し上げます次第でございます。誠に微力ではございますが、小生も何とか世界の為、仏法の為、ことに暖流と寒流のぶつかる処に生じている多くの生命活動の如き問題に対して尽力できるならばと念じておりますので、向後一層の御教導と御鞭撻を賜われます様伏してお願い申し上げます。乱筆御無礼申します。

右、取りあえず御礼まで 合掌

二月十八日

大場満洋九拝